

令和3年度全国学力・学習状況調査における

結果について

■ 令和3年度全国学力・学習状況調査の概要

1. 調査の目的

- ・義務教育の機会均等等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象及び調査方式

小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査実施日

令和 3年5月27日

4. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（小6国語・算数、中3国語・数学）
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

■ 教科に関する調査 小学6年生 国語科

全体の概要

- ・全体的には県や全国平均をやや下回っていました。
- ・観点別に見ると、知識・技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）については、全国平均、県平均とほぼ同じです。思考・判断・表現（話す・聞く、書く、読む）について、全国平均、県平均を下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識及び技能	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では無答率の高いものが多く、課題が見られます。	・正しく書く、正しく使うためには、漢字の意味を理解することや、漢字を使う経験を積み重ねていく必要があります。
思考・判断・表現	・目的に応じて必要な情報を見付けたり、要約したりする問題では正答率が 20%台と低く課題が見られます。	・自分の考えをまとめさせる活動を取り入れる際は、字数や取り入れる表現を制限する等、条件を与えて書く活動を授業に位置付ける必要があります。

■ 小学6年生 算数科

全体の概要

- ・全体的には県や全国平均とほぼ同じです。
- ・観点別に見ると、知識・技能は県や全国平均とほぼ同じです。思考・判断・表現については、全国平均をやや下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
知識・技能	・除法の式と商の意味を理解する問題や、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする問題では正答率が 40%台と低く、課題が見られます。	・示された式や値が何を表しているのか、確認をしながら学習活動を展開していく必要があります
思考・判断・表現	・図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する問題や、基準量を 1 としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題では正答率が 40%台と低く、課題が見られます。	・図形の構成についての見方を働かせ、複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方を、筋道を立てて考察したり表現したりする必要があります。 ・数や場面を変えても計算に関して成り立つ性質を活用できるかどうかを考察することができるようする必要があります。

■ 教科に関する調査 中学3年生 国語科

全体の概要

- ・ 県や全国平均をやや下回っていました。
- ・ 観点別に見ると、話す・聞く能力や書く能力は全国平均及び県平均とほぼ同じでした。読む能力と言語についての知識・理解・技能は全国平均をやや下回っていました。
- ・ 問題形式別に見ると、記述式の問題が全国平均を下回っていました。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことや相手に分かりやすく伝わる表現についての理解に課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す活動の後に、自分の発言や友達の発言について、話の構成や内容、話し方などの評価の観点を明確にして振り返る時間を授業に位置付けることが大切です。
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい事柄について、根拠を明らかにして書く問題では無解答率が約 10%と、全国平均よりも高い結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を明確にして自分の考えを書き、根拠の妥当性について意見を述べ合う活動を行うことが大切です。 ・ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方、段落構成などに着目し検討する必要があります。
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文脈の中における語句の意味を理解することに課題があります。 ・ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞や雑誌など様々な媒体に触れる中で、ひとつひとつの語句の意味にも注目しながら、文章に親しむことが大切です。 ・ 文章の内容や構造を理解して必要な情報を取り出したり、既存の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりする必要があります。
知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解することに課題があります。 ・ 相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な語句について指導をする際には、実際に使われている具体的場面を取り上げてその意味を確認し、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習が有効です。 ・ 相手や場に応じた言葉遣いが必要であることを理解するとともに、生活場面での経験とも結びつけながら体得していく必要があります。

■ 中学3年生 数学科

全体の概要

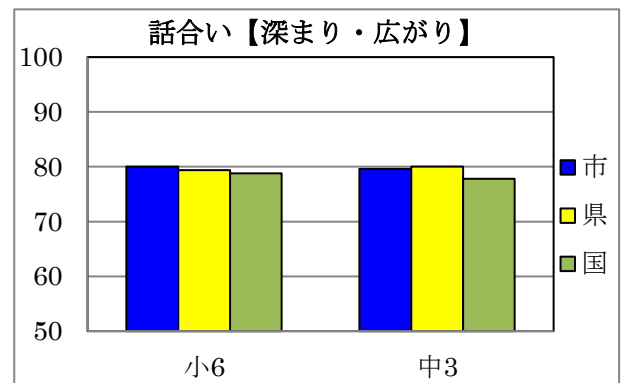
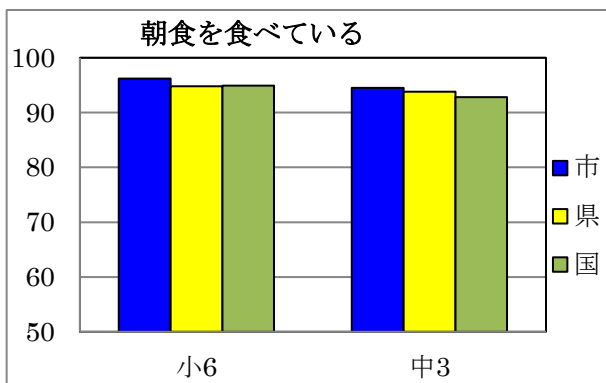
- ・ 県平均や全国平均とほぼ同じ結果でした。
- ・ 観点別では、数学的な見方や考え方と数量や図形などについての知識・理解が全国をやや下回っています。
- ・ 領域別では、図形が全国平均をやや下回っています。

観点	小城市の課題	改善に向けたポイント
見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があります。 ・ 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式の意味についても考える場面を設けるとともに、事柄が成り立つ理由を表現する活動を取り入れる必要があります。 ・ 問題解決の過程を振り返り処理の仕方を見直す場面を設定し、数学的に表現する力や考える力をさらに伸ばすことが大切です。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な場面で、一元一次方程式をつくることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活場面の中にある一元一次方程式の状況にも目を向けさせ、学びの日常化を図っていく必要があります。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解することに課題があります。 ・ 関数の意味を理解することに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の性質を理解する場面では、個別的な理解にとどめるだけでなく、統合的・発展的に考察し、新たな性質を見いだすことが大切です。 ・ 日常的な事象を数や量で捉えて考える機会を増やすことが大切です。

■ 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査 小城市の概要・考察

【 小城市の小・中学生のいいところ 】

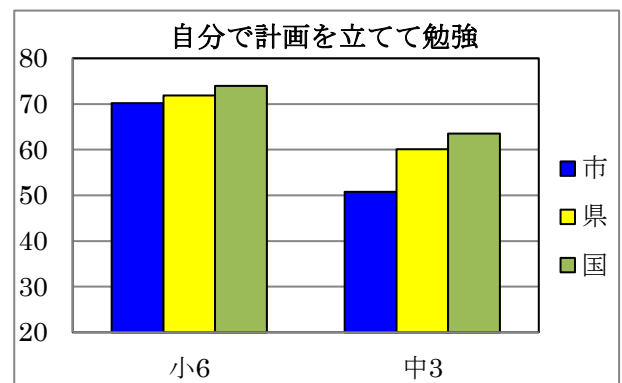
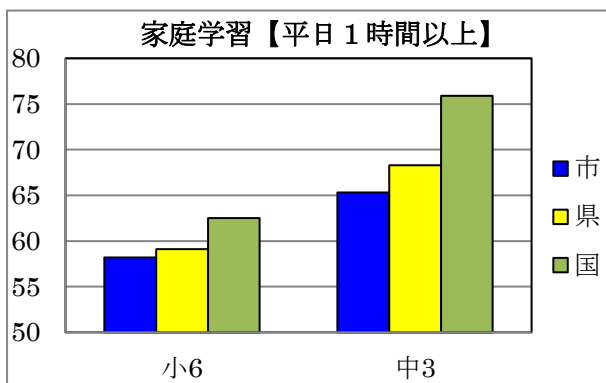
調 査 の 項 目	
① 朝食	※している・どちらかといえばしていると答えた児童生徒の割合
③ 話し合い	※当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童生徒の割合



- ・「朝食」の項目からは、基本的な生活習慣の定着が進んでいることがうかがえました。今後も、『早寝・早起き・朝ごはん』を合言葉に、健康的な生活習慣を維持してほしいと願っています。
- ・「話し合い」の項目からは、教育活動における様々な場面で話し合い、自分の考えを深めたり、広げたりしていることがうかがえます。今後も他者と協働しながら学ぶ機会を大切にしてほしいと思います。

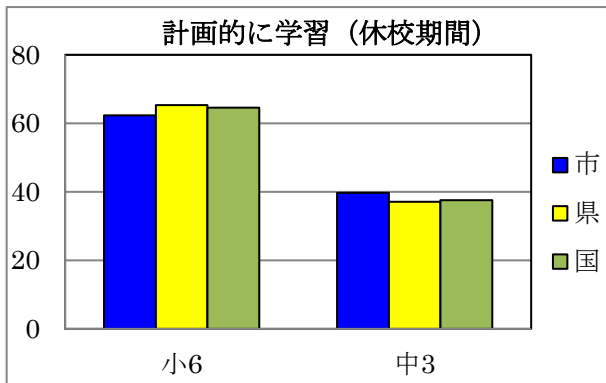
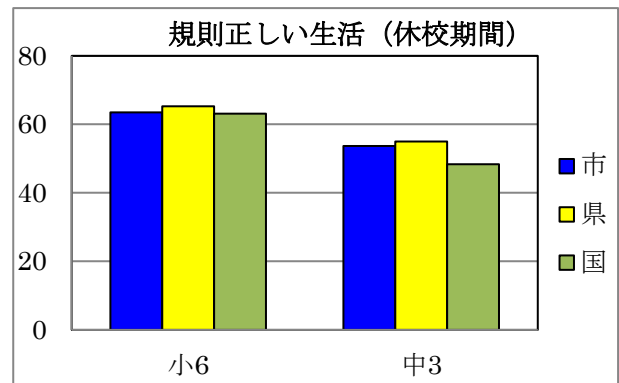
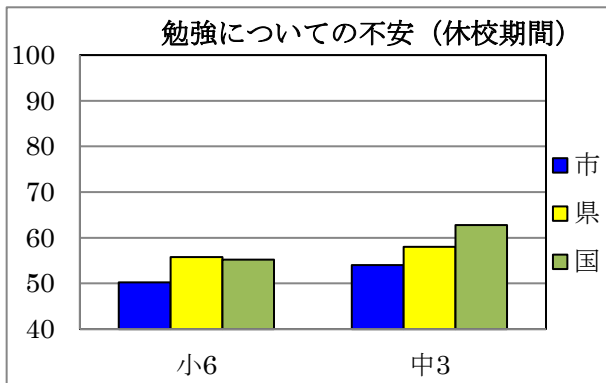
【 小城市の小・中学生の気になるところ 】

調 査 の 項 目	
① 家庭学習	※平日1時間以上学習していると答えた児童生徒の割合
② 計画的な学習	※よくしている、ときどきしていると答えた児童生徒の割合



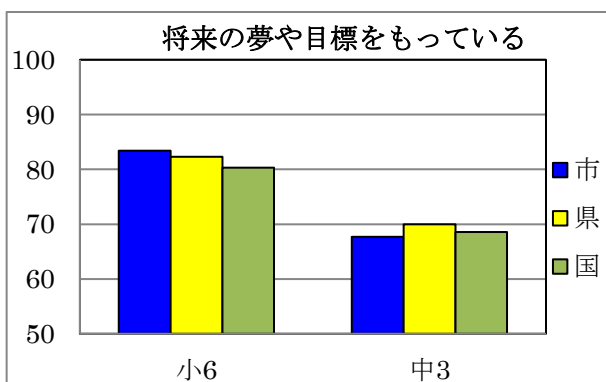
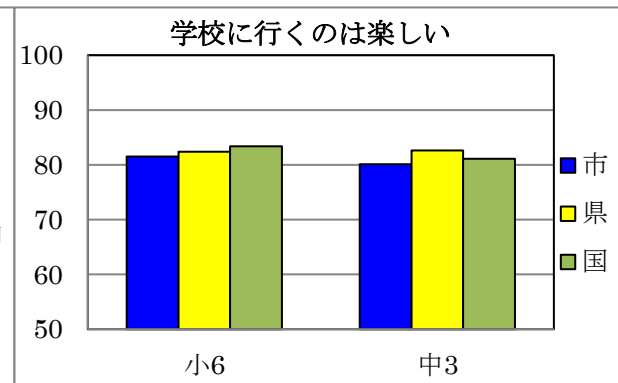
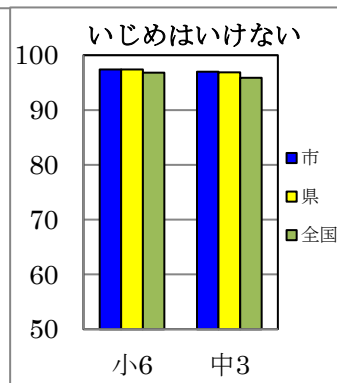
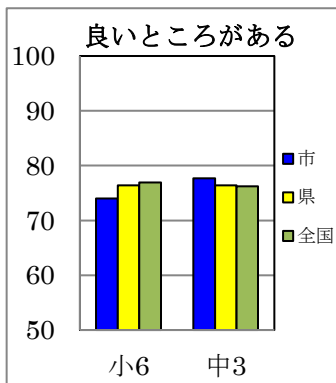
- ・家庭学習及び、自分で計画を立てて勉強する項目については、小6、中3ともに県平均を下回る結果となりました。各学校で工夫して作成している「家庭学習のてびき」等の活用法を考えるとともに、児童生徒自身のタイムマネジメント能力を育む取り組みの必要を感じました。

【 コロナ禍に係る項目 】



・コロナ禍の影響で休校となった期間、勉強への不安を感じていた児童生徒は少なくなかったようです。そのような中、ご家庭の協力もあり、規則正しい生活や計画的な学習については、肯定的な回答の割合が比較的高い結果となりました。前述した、タイムマネジメント能力をさらに育むことで自立的な生活を営む資質が育まれるように思います。

【 おわりに 】



・自分を肯定的に捉える力については伸びが感じられます。「いじめはいけない」という強い気持ちをもっていることを認めるとともに、さまざまな場面で、『出演』『役割』『承認』のサイクルを活用していきたいものです。その中で「できると思う逞しさ」と「ありのままの自分を受け入れるしなやかさ」を育む必要があると感じます。

・夢や目標をもつことは、成長につながる原動力です。今の姿を認め励まし、なりたい自分の姿を思い描くことのできる支援を積み重ねていきたいものです。